

伝統文化アドバイザー連載エッセイ 第六回



都山流尺八竹琳軒大師範
加藤 条山先生

【尺八】第2回「これ楽譜？」

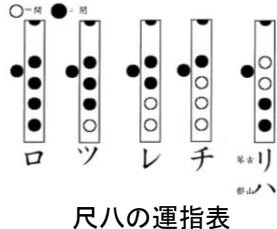
皆さんの中には、楽器は演奏してみたいけれど、五線譜はちょっと、という方も少なくないと思います。音楽の授業で五線譜を見た事があるけど、よくわからなかった……という小さい頃の経験が苦手意識を生み出しているかもしれませんね。

さて、洋楽器はご存じの通り五線譜表記ですが、殆どの邦楽器(和楽器)には独特の楽譜があります。それらは文化譜、と呼ばれます。ここでは尺八の楽譜を紹介させていただきます。

写真の通り、尺八の楽譜は「ロツレチハ」という基本五つのカタカナで表記されています(流派によって異なります)。少し変わった表記ですよ。このカタカナは、それぞれが指の塞ぎ方を示しており、「ロ」が最も低く、「ハ」が最も高い音となります。例えば「ロ」とあれば全部の穴を押さえ、「ツ」とあれば、一番下の孔のみ開けて……という具合で決して難しくはありません。ロツレチハの五つの運指を覚えられるかな、と不安に思われるかもしれませんが、小学生の子でも数回吹けば自然と覚え、演奏していますよ。

さて、日本の音楽には、この「ロツレチハ」が多く使われています。ピアノの音階に直せば「レファソラド」という音の並びです。是非ご自宅等にピアノがある方、順番に音を弾いてみてください。とても日本らしい音楽が流れるはずですよ。日本中の民謡はこの「ロツレチハ」で殆どが演奏できますし、最近流行った「千本桜」などもこの「ロツレチハ」の音階で描かれています。音楽の事を知らなくても、この音階は日本風だな、と感じるのは、我々が元より日本人だから、でしょうか。

ロツレチハ、レファソラド、が琴線に触れた方は、是非和楽器でも、一度奏でてみて下さいね。



4ジャンルの伝統文化アドバイザーが伝統文化についての相談・質問にお答えします！
メール (kita@bunka758.or.jp) に下記内容を入力のうち、お気軽にお問い合わせください。



加藤条山氏(尺八) 石田巳賀氏(華道) 華房小真氏(端唄) 國分入道光雲氏(和太鼓)

- 質問するアドバイザー名
- お名前 ○年齢 ○地域
- 地域 ○所属団体(任意)
- メールアドレス ○ご質問内容



施設事業のご案内

10/7(土) ふれあい文化事業「3ガガヘッズ Live Show」【チケット好評発売中】

言葉を使わないビジュアルコメディーは世界中で大絶賛！
見たら絶対に忘れられない、オリジナリティーあふれる笑いをお届け！

日 時：令和5年10月7日(土)
14:00開演(13:30開場)
公演時間：約90分
会 場：北文化小劇場ホール
料 金：〈全自由席〉
一般 1,500円 友の会・障がい者等 1,300円
出 演：3ガガヘッズ

〈プロフィール〉コメディーカンパニー「ワハハ本舗」に所属する2人組のパフォーマンスグループ。彼らの作品の多くが言葉をあまり使わない「ビジュアルコメディー」であることから、2009年より海外ライブツアーを開始、現在までに世界34カ国1000回以上の公演を行い、世界中の大人から子供までが大絶賛している。



3ガガヘッズ



職員コラム～揚幕の隙間から～

第5回「ハリー・ポッターと呪いの子」

「魔法がいま、現実になる。」この言葉がここまでぴったりくる舞台は初めて見ました。浮かび上がる肖像画、飛び回る椅子や書類、動く本棚に杖から放たれる魔法…。役者の動きと舞台セットと照明の演出で、本当に魔法の世界に訪れたような気持ちになりました。舞台に関わる仕事をしている身としては、現実の舞台において、ここまで再現できるということに対して、驚きと感動に包まれました。また、ホワイエの壁には守護霊が描かれ、キャスト表は入口中央の本棚にさりげなく飾られ、客席内に入るとダウンライトがイギリスの街灯のようなデザインとなっており、スタッフもホグワーツ魔法魔術学校の制服を着ていました。劇場は非日常な空間に連れて行ってくれる場所だと個人的に思っているのですが、ここまで徹底して世界観が作られていたので、開場から終演までずっとアトラクションのようでとても楽しい時間を過ごせました。



さて前号では、裏方がメインの舞台の話をしてきましたが、今回はその中でも舞台照明について少しお話をしようかなと思います。何故かという、このハリー・ポッターの舞台を観劇して、一番印象に残ったのは、照明の使い方だったからです。以前、舞台照明についての解説動画を見ていた時に、「舞台の照明は見せたいものを見せ、見せたくないものをいかに見せないかが重要」という主旨のことを講師の方がおっしゃっていました。この舞台は、照明や役者の動きによって、いかに観客の視線を誘導するかで、不思議な空間を成り立たせているはずで、それはまさに「見せたくないものを見せない」照明といえるのではないかと。そう思いました。いわゆるミスディレクションで、マジックやイリュージョンなんかでもよく使われている手法ですが、ここまで連続的に壮大に展開されると、舞台や照明の可能性はまだまだ広がっていきそうだとワクワクしてしまいました。他にもフライングアクションに合わせて動く照明だったり、列車の動きに合わせた照明だったり、それがあってリアリティが増すような、素晴らしい演出だと思いました。

また、照明と同じくらい感動したのが、映像の使い方です。異世界や魔法を表現するために、映像は表現としてとても使いやすいものだと思います。実際、最初から最後まで背景や演出を映像で表現している舞台もよく見ます。それはそれで、とても迫力があって好きなのですが、このハリー・ポッターの舞台では、私が気づいた限り数回しか使用していませんでした。ずっと使うのではなく、ここぞという時に使うというやり方はとても効果的で、個人的にとっても好きでした。

2022年6月に始まってからすでに1年以上が経過している「ハリー・ポッターと呪いの子」ですが、メインキャストが入れ替わりながら、2024年3月までは公演が行われることが決まっています。未知なる舞台を体感するために、ぜひ観劇してみたいのがではないかと。ただし、ハリー・ポッターシリーズ(最終作は「ハリー・ポッターと死の秘宝」)のネタバレがあるので、未見・未読の方はご注意ください。

施設事業レポート

7/29(土)「ベビーウェルカムコンサート～初めての音色～」

7月29日(土)に0歳から一緒に参加できるコンサート「ベビーウェルカムコンサート～初めての音色～」を開催しました。出演は「フライングドクター」の皆さんです。舞台上には約20個の楽器がずらりと並び、曲中で次々と楽器を持ち替えながら行う演奏で、耳だけでなく目でもお楽しみいただきました。

「アンパンマンのマーチ」や「ドレミのうた」などの楽しめる人気曲や、「威風堂々」といったクラシックまで様々な音楽に触れてもらいました。また、『おかあさんといっしょ』でおなじみの「ぼよん行進曲」では、歌ったり踊ったり、ジャンプのタイミングにあわせてお子様を持ち上げて一緒に参加する姿も見られました。

フライングドクターの皆さんは9月にも親子向けのコンサートを予定しているそうです。ぜひHPやSNSをチェックしてみてください！



フライングドクターHP



「ぼよん行進曲」でジャンプ！



花道を通して目の前で演奏も！

快適以上を、世の中へ。

TOEI NEC

広告募集中！

掲載料1枠50,000円／年

ご希望の方は北文化小劇場まで

TEL 052-910-3366